



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

令和7年度
公共ホール音楽活性化事業
(障がい者関連プログラム)
公共ホール現代ダンス活性化
障がい者関連事業
報 告 書

はじめに

一般財団法人地域創造では、地域における創造的な文化・芸術活動のための環境づくりを目的として、地方公共団体等との緊密な連携の下に、地域における文化・芸術活動を担う人材の育成、公立文化施設の活性化支援、情報提供、調査研究などの事業を実施しています。

これらの事業の一環として、地域創造では令和7年度から「公共ホール音楽活性化事業（障がい者関連プログラム）」「公共ホール現代ダンス活性化障がい者関連事業」をスタートしました。

この事業は、公共ホール音楽活性化事業や公共ホール邦楽活性化事業、または公共ホール現代ダンス活性化事業を実施した団体が、これまで蓄積したノウハウを生かして特別支援学校や障害者施設等においてアウトリーチによる地域交流プログラムを実施するものです。地域創造では、この事業を通じて、障がい者を対象とした事業に係る公共ホール職員の企画・制作能力の向上、創造性豊かな地域づくりを支援しています。また、長期的なビジョンを持って事業を実施できるよう、最大3か年まで実施可能です。コーディネーターによる企画から実施までの支援、全体研修会の開催など、充実したサポート体制のもとに、安心してこの事業に取り組むことができる仕組みづくりを行っています。

この報告書は、令和7年度に実施された4団体（公共ホール音楽活性化事業（障がい者関連プログラム）2団体、公共ホール現代ダンス活性化障がい者関連事業2団体）の取り組みをまとめたものです。実施団体からの報告や担当コーディネーターのレポートを掲載し、事業に関係して気づいた点や企画制作のノウハウ、事業を実施する過程において生じた様々な課題や問題点などをケーススタディとして記録するように努めています。

この報告書が公共ホールで自主事業に取り組む方の参考となり、企画・運営にお役立ていただければ幸いです。

終わりに、この事業を主体的、積極的に実施していただいた実施団体、各地域に寄り添ったプログラムを実施していただいたアーティスト、事業の実施にあたり貴重なアドバイスやご尽力をいただいたコーディネーター、その他多くの関係者の皆様方のご協力のもと、令和7年度の事業を終了することができましたことに対して、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

目次

〈本文中の社名、所属、役職等は、事業実施時点のものです〉

令和7年度

公共ホール音楽活性化事業（障がい者関連プログラム）

公共ホール現代ダンス活性化障がい者関連事業

事業概要

実施概要	2
アーティストプロフィール	3
コーディネータープロフィール	4
事業体制・実施日程	5
全体研修会 実施概要	6

実施内容紹介・コーディネーターレポート

伊賀市文化会館（三重県伊賀市）	8
倉敷市玉島市民交流センター（岡山県倉敷市）	14
荘銀タクト鶴岡（山形県鶴岡市）	20
穂の国とよはし芸術劇場 PLAT（愛知県豊橋市）	26

令和7年度

公共ホール音楽活性化事業(障がい者関連プログラム)

公共ホール現代ダンス活性化障がい者関連事業

事業概要

実施概要

1 趣 旨

一般財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、公共ホールの活性化と地域における創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりへの寄与、障がい者を対象とした事業に係る公共ホール職員等の企画制作能力の向上及び創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、市町村等との共催により、特別支援学校や障害者施設等においてアウトリーチによる地域交流プログラムを実施する。

2 実施団体

令和5年度までに、公共ホール音楽活性化事業、公共ホール邦楽活性化事業または公共ホール現代ダンス活性化事業（平成29年度以降はダン活Aプログラム）を実施した市町村等（特別区を含み、政令指定都市を除く）。

3 事業内容

4日間以内の日程を1回または2回に分け、障害者施設等においてアウトリーチによる地域交流プログラムを4～8回実施。派遣するアーティストは、公共ホール音楽活性化支援事業登録アーティストまたは公共ホール現代ダンス活性化支援事業登録アーティストから、実施団体の希望を勘案の上、地域創造が決定する。

(1) 研修会

①全体研修会

日 時：令和7年5月8日（木）～5月9日（金）

会 場：一般財団法人地域創造 会議室

内 容：実施団体を対象として、事業の目的や効果などについての理解を深めるための研修会を開催

②現地下見（個別研修）

事業の実施に必要な打合せ及び実施会場の下見等を行うため、アーティスト及びコーディネーター等を現地に事前に派遣

4 経費負担

(1) 一般財団法人地域創造が負担する経費

①公共ホール音楽活性化支援事業登録アーティスト派遣に係る経費

アーティスト及び伴奏共演者の謝金、現地移動費を除く交通費・宿泊費等、派遣に係る保険料、マネジメント料。

②公共ホール現代ダンス活性化支援事業登録アーティスト派遣に係る経費

アーティスト及びアシスタント（ソロの場合2名まで、デュオの場合1名まで）の謝金、現地移動費を除く交通費・宿泊費等、派遣に係る保険料。

③地域交流プログラム負担金（音楽事業のみ）

実施団体が支出した地域交流プログラムに係る経費のうち、ピアノ調律料、楽器運搬費およびこれに準ずるものとして特に地域創造が認めたもの。（限度額20万円）

(2) 実施団体が負担する経費

一般財団法人地域創造が負担する経費以外の経費（現地移動費、広報宣伝費、全体研修会への参加旅費など）。

令和7年度アーティスト及びコーディネーター アーティストプロフィール



©Masatoshi Yamashiro

●石上真由子（いしがみ・まゆこ）

日本音楽コンクール等、内外で受賞多数。国内外でオーケストラとの共演も重ね、題名のない音楽会やNHKクラシック音楽館等メディア出演も多数。アンサンブル九条山メンバー、ポラリス国際音楽祭アドバイザーも務める。Ensemble Amoibe 主宰。Music Dialogue アーティスト。京都市芸術新人賞、音楽クリティック・クラブ賞、大阪文化祭賞、青山音楽賞、藤堂音楽賞、京都府文化賞、京都府あけぼの賞受賞。日本コロムビア、ALTUS、ワオンレコード、キングレコードよりCD 発売中。www.mayukoishigami.com



©FUKAYA Yoshinobu/auraY2

●野尻小矢佳（のじり・さやか）

「観て、聴いて、感じる」多彩な音楽が魅力の打楽器奏者。武蔵野音楽大学卒業、同大学奨学生。日本打楽器協会新人グランプリ他受賞多数。国内外で創造性豊かな音楽を届ける。学校等へのアウトリーチもライフワークとし、複数地域の連携事業や公演のプロデュース等、音楽を通じた繋がりや醸成にも力を入れている。心身への造詣も深めた寄り添うアプローチでは、文化庁ユニバーサル公演事業に先行実施より携わり、親子公演やバリアフリー公演・ワークショップの信頼も厚い。CD 4枚をリリース、年間最優秀録音盤に選出。（一財）地域創造・公共ホール音楽活性化支援事業登録アーティスト。Smile Music 主宰。KOROGI、REMO、Protection Racket、各エンドーサー。認定心理士。https://sayakanojiri.com/



© 松本和幸

●田畑真希（たばた・まき）

ダンスカンパニータバマ企画主宰。3歳からクラシックバレエを始める。更なる表現を追求するため桐朋学園短期大学演劇科に入学。様々なジャンルの身体表現を学ぶ。滑稽なまでにガムシャラに、ユーモアを散りばめながら丁寧に時間を紡ぐ作風には定評があり、国内外で活動。7カ国 18 都市にて作品を上演し好評を得る。近年はインクルーシブダンスWSや作品創作、様々な世代を対象としたWSなども展開中。性別、年齢、国籍、障がいの有無などの差異を超えて、誰もが楽しみながら出来る身体表現の促進を目指す。



photo: Ai Hirano

●セレノグラフィカ（隅地茉歩+阿比留修一）

代表の隅地茉歩（同志社大学大学院文学研究科修了）と阿比留修一（近畿大学文芸学部芸術学科演劇芸能専攻卒業）によって1997年に結成。デュエット作品の創作を基軸に方法論の確立と解体を続行し、隅地のTOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD2005「次代を担う振付家賞」（グランプリ）受賞後は、国内外に作品発表の場を広げる。2007年、公共ホール現代ダンス活性化事業の登録アーティストとなったことをきっかけとして、全国各地でのアウトリーチ活動や市民参加作品創作にも多数取り組み、各地の劇場やNPO等と協働。実演以外にも、大学での講義や冊子の刊行など、広範に身体表現芸術の普及に務めている。

コーディネータープロフィール

●佐藤拓道（〈たんぼぼの家アートセンター HANA〉副施設長）

たんぼぼの家アートセンター HANA のスタッフとして障害のあるメンバーのケアに携わりつつ、自身も俳優として活動。また、たんぼぼの家の中では、「HANA PLAY」と題した演劇プログラムを担当し、メンバーの暮らしや人生の経験に基づいたオリジナルの演劇公演を制作、様々な場所で公演を行っている。施設外での演劇ワークショップの経験も多数。

●田中玲子（認定 NPO 法人トリトン・アーツ・ネットワーク エグゼクティブ・プロデューサー／理事）

慶應義塾大学美学美術史学専攻卒業。フィリアホール企画制作担当、教育プログラムについて英国ノッティンガムとアイルランド・ダブリンでの劇場研修（文化庁新進芸術家海外研修制度）を経て、現在認定 NPO 法人トリトン・アーツ・ネットワークのエグゼクティブ・プロデューサー／理事。第一生命ホールを拠点にして、ホール主催公演と、ホール周辺地域でのコミュニティ事業を企画制作。

●松本志帆子（藁工ミュージアム 学芸スタッフ／ NPO 蛸蔵 理事）

大学では歴史を専攻。ボランティアを通じて現代アートに触れ、アートに携わる活動を行うようになる。2010 年学芸スタッフに着任。ミュージアム開館準備から運営に関わり、展覧会やワークショップ、演劇・音楽公演、映画上映会などを企画・実施。障がいのある方の表現活動の支援や人材育成なども行う。様々な分野をつなぐネットワークをつくりながら、その時々それぞれの「適当」を大切に、様々な「枠」が広がり、誰もが個を大切にされる社会を目指し活動している。

●津村 卓（（一財）地域創造プロデューサー）

一般財団法人地域創造芸術環境部プロデューサー。信州アーツカウンシル長兼長野県松本文化会館（キッセイ文化ホール）館長。これまでに大阪ガス扇町ミュージアムスクエア、伊丹市立演劇ホール（AI HALL）、びわ湖ホール、北九州芸術劇場、長野県上田市サントミュージゼにおいてプロデューサーまた館長を歴任し、地域創造の立ち上げから務めるなか、楽しい劇場運営を目指すと共に、地域の公共ホール・劇場のミッションと役割を考えた事業を企画制作している。

事業体制・実施日程

■事業体制・実施日程

都道府県	市町村	実施団体	実施ホール	実施日程	アーティスト	コーディネーター
【公共ホール音楽活性化事業（障がい者関連プログラム）】						
三重県	伊賀市	(公財) 伊賀市文化都市協会	伊賀市文化会館	令和8年 1月28日(水) ～29日(木)	石上真由子	田中玲子
岡山県	倉敷市	玉島テレビ放送・JFE西日本 ジーエス共同事業体	倉敷市玉島市民 交流センター	令和7年 10月28日(火) 令和8年 2月4日(水) ～6日(金)	野尻小矢佳	津村卓
【公共ホール現代ダンス活性化障がい者関連事業】						
山形県	鶴岡市	タクトつるおか共同企業体	荘銀タクト鶴岡 (鶴岡市文化会館)	令和8年 1月27日(火) ～29日(木) 令和8年 3月3日(火)	セレノグラフィカ	佐藤拓道
愛知県	豊橋市	(公財) 豊橋文化振興財団	穂の国とよはし 芸術劇場 PLAT	令和8年 1月13日(火) ～14日(水) 令和8年 2月17日(火) ～18日(水)	田畑真希	松本志帆子

全体研修会 実施概要

1 概要

令和7年度の実施団体担当者を対象とした全体研修会を実施。1日目は当事業の基本的な考え方や事例共有などのゼミを開催した。また、地域ごとのグループに分かれ、事業の実施に向けたディスカッションを行い、2日目に企画検討とその経過を発表した。

2 参加者

令和7年度実施団体担当者

3 日程

令和7年5月8日（木）～9日（金）

4 会場

一般財団法人地域創造 会議室

5 スケジュール

5月8日（木）

時間	内容
13:30～14:00	●オリエンテーション
14:00～15:00	●レクチャー「多様な参画の実現に向けて ～障がい者とアートをつなぐ～」 講師：南部充央（一般社団法人日本障害者舞台芸術協働機構 代表理事） 吉野さつき（愛知大学文学部メディア芸術専攻教授、アーツ・マネージャー、ワークショップ・コーディネーター）
休憩	
15:15～17:15 (途中休憩あり)	●全体ワーク（アーティスト、コーディネーターと実施団体による事例共有） [アーティスト、コーディネーター] [吉野さつき、南部充央]
休憩	
17:30～18:30	●グループワーク① (実施団体、アーティスト、担当コーディネーター顔合わせ)

5月9日（金）

時間	内容
10:00～12:00	●グループワーク② (情報共有、打ち合わせ、発表)
12:00～12:15	事務連絡

実施内容紹介・コーディネーターレポート

伊賀市文化会館 実施データ

実施団体	公益財団法人伊賀市文化都市協会
実施ホール	伊賀市文化会館
実施期間	令和8年1月28日(水)～1月29日(木)
アーティスト等	アーティスト：石上真由子 伴奏共演者：金澤みなつ(ピアノ)
<p>■下見内容(月日(曜日)、内容)</p> <p>11月25日(火) 名張育成会は一と、伊賀つばさ学園、ヴェルデ・ドゥの順番で下見 11月26日(水) 参加者に向けての紹介PVの作成</p> <p>■内容(実施日時(曜日)、団体名等、対象、参加人数、会場)</p> <p>1月28日(水) 9:40～10:30、伊賀つばさ学園、高等部1年生、14名、音楽室 1月28日(水) 16:00～16:45、名張育成会は一と、小学生から高校生の入所・通所者、25名、多目的ルーム 1月29日(木) 9:40～10:30、伊賀つばさ学園、高等部2・3年生、28名、音楽室 1月29日(木) 16:30～17:00、ヴェルデ・ドゥ、小学生の利用者、10名、ホール</p>	

スケジュール

派遣回 月日	下見		実施期間		
	11/25(火)	11/26(水)	1/27(火)	1/28(水)	1/29(木)
9:00	移動			移動・準備	移動・準備
10:00	ミーティング	移動		伊賀つばさ学園 本番	伊賀つばさ学園 本番
	移動	紹介PV 撮影			
11:00	移動	移動		撤収	撤収
12:00	名張育成会は一と 下見	終了		移動・昼食	移動・昼食
	移動・昼食				
13:00	伊賀つばさ学園 下見			はーと入り	移動・昼食
14:00	移動				
15:00	移動			準備・リハ	ヴェルデ入り
16:00	ヴェルデ・ドゥ 下見		移動	名張育成会は一と 本番	準備・リハ
	移動		伊賀市文化会館 で練習		ヴェルデ・ドゥ 本番
17:00	移動			撤収	撤収
18:00	移動		移動	夕食・懇親会	振り返り
19:00	食事兼 ミーティング				移動
					終了
20:00	移動		移動		
21:00					

アウトリーチの概要

特別支援学校伊賀つばさ学園アウトリーチ

1月28日（水）9：40～10：30

対 象：高等部1年生

会 場：音楽室

参加者：14名

クラシック曲の演奏と、楽器の特徴や、Happy Birthday を演奏しながらヴァイオリンの演奏方法を紹介。ピアノの紹介では子犬のワルツを演奏した。勇気100%では参加者も一緒に手拍子などをして、音楽を楽しんだ。クラシック曲だけでなく、学校の行事でも使っている曲を演奏してくれたことで、ともに音楽を楽しんでいるという一体感があつた。



社会福祉法人名張育成会 こどもライフサポートセンター はーとアウトリーチ

1月28日（水）16：00～16：45

対 象：小学生から高校生の入所・通所者

会 場：多目的ルーム

参加者：25名

はーとの会場は、床のマットの上に座って聴くスタイルで、リラックスした雰囲気を実施した。演奏者との距離も近く、間近で演奏する姿や、生の楽器の音色をダイレクトに感じることができる演奏会となったが、距離が近い分、演奏中に参加者が演奏者に近寄っていく場面があり、むやみに近づいて楽器に触ったりしないよう、細心の注意を払う必要があつた。また、演奏前に演奏者が会場に移動する動線で、参加者が楽器に触れてしまう出来事があり、そのような場面でもスタッフを付けて、態勢を整える必要があつた。



特別支援学校伊賀つばさ学園アウトリーチ

1月29日（木）9：40～10：30

対 象：高等部2・3年生

会 場：音楽室

参加者：28名

前日から引き続き、伊賀つばさ学園での2日目のアウトリーチでしたが、今回は2・3年生が参加し、今回の勇気100%の演奏では、立ち上がって曲に合わせて踊ったり、歌ったり、前日よりも体を動かして楽しんでいる様子がうかがえた。また、当日、誕生日の参加者に向けて Happy Birthday の演奏をプレゼントし、大変喜ばれた。



放課後等デイサービス事業所 ヴェルデ・ドウ アウトリーチ

1月29日(木) 16:30～17:00

対 象：小学生

会 場：ホール

参加者：10名

インフルエンザの影響で参加者が少なくなり10名となったが、保護者の参加も1名あった。
30分という短い時間であったが、その分集中して、楽しんで聴いているように感じた。
保護者の方の参加もあったことで、一緒に聴いている子は安心して聴けたのではないかな。



1月29日(木) 伊賀つばさ学園 高等部2・3年生

- 石上さん、金澤さん入場
- 美しきロスマリン演奏
- 石上さん、金澤さん自己紹介
- 楽器紹介 (ヴァイオリン・石上さん)
 - ・ 弓が馬のしっぽの毛でできている
 - ・ ヴァイオリン本体は木でできている
 - ・ 中は空洞で魂柱が入っている
 - ・ 弦を弓でこすって音を出している
 - ・ Happy Birthday の演奏で、様々な奏法を紹介
 - ・ 誕生日の生徒に向けて Happy Birthday を演奏 (・ 弦の押さえ方で音の違いを演奏)
- 楽器紹介 (ピアノ・金澤さん)
 - ・ ピアノの弦について 短い弦は高い音、長い弦は低い音
 - ・ 弦をハンマーで叩くことで音を出している
 - ・ 子犬のワルツ演奏
- 事前アンケートで出た曲 (愛の挨拶) を演奏
- トロイメライ
- バンジョーとヴァイオリン
 - ・ バンジョーの画像を見てもらい、バンジョーの弾き方を紹介
- さんぽ・運動会で使用した曲 (勇気 100%) を演奏
 - ・ 参加者も歌ったり、踊ったりしながら
- ユーモレスク
- 白鳥
- チャルダッシュ
- 生徒からお礼の言葉



●この事業への応募動機

- ・障がいのあることも対象のアウトリーチ事業の経験がなく、このプログラムをきっかけに特別支援学校等とのつながりや、今後の福祉施設等のアウトリーチ事業に繋げていくため
- ・障がいのある方との接し方や、福祉施設でのアウトリーチ事業の内容の組み立て方などを学ぶため

●事業のねらいと企画のポイント

- ・普段なかなか体験することができない生演奏を聴くことや、演奏者とともに歌を歌ったり、音を奏でることで、心から音楽を楽しみ、様々な形で自分自身を表現する楽しさを知ってもらう。
- ・アウトリーチ事業の幅を広げ、今後のホールへの来場者に繋げる。

●企画実施において苦労した点

- ・複数の箇所を限られた日数で回り、回数を実施するための時間の調整が難しかった。
- ・施設の職員の方は慣れているのか、演奏中などふらっと前に出てくる参加者がいても、止めに入るなどがあまりなかったように感じられ、こちら側でサポートする必要性を感じた。
- ・出演者が会場に移動中、入所者の方が楽器に触れてしまう場面があり、控室から会場までの動線も楽器、楽器ケース、出演者等にも注意が必要であった。今後の企画として、触ってもよい楽器を別に用意しておくなどがあってもよい。
- ・事前に会場の下見や、職員との打ち合わせを対象者がいる時間、できれば事業実施予定時間に綿密に行うべきであった。

●事業を実施しての成果と課題

- ・実施前は参加者の対応や、実際に音楽を聴いたときの反応に不安があったが、演奏者の方も曲目に緩急をつけて、一緒に楽しむ曲、盛り上がる曲の後には、座ってしっかり聴く曲などしっかりプログラムを考えてくれていて、参加者も落ち着いて音楽を楽しむ時間を過ごせているように感じた。普段の学校生活や家庭とは違う、音楽を聴く場所ということ、参加者も理解してくれていたのではないかと。
- ・縦長の会場づくりをすることで、参加者と演奏者の距離を保つことができ、どちらも安心して楽しむことができる。
- ・施設の職員の方だけに頼らず、想定しうるトラブルなどに対応できるよう、事前にスタッフの人数や配置など、こちらでもサポート体制をしっかりと整えておくことの重要性を実感した。
- ・ホールなどに音楽を聴きに来ることが難しい方たちにも、音楽の楽しさ、心地よさを知ってもらうよい機会になった。また、楽しさや喜びを、踊ったり、歌ったり、身体全体で表現してくれている姿を見て、今後もアウトリーチ事業を続けていき、より多くの方に音楽の生演奏を届けていきたいと感じた。

●今後の事業展開や展望

- ・次年度以降も、今回実施した伊賀つばさ学園で、定期的に学年を変えるなどして開催していきたい。
- ・今回行くことができなかった、伊賀市内の放課後等デイサービス事業所を回る。
- ・様々な楽器、ジャンルの音楽を実施する。
- ・楽器体験や、手作りの楽器を作ってみるなどのワークショップ。
- ・音楽を聴いて、絵を描いてみる。
- ・最終的には、障がいのある方も参加しやすい、誰もが楽しめるコンサートをホールで実施する。

●地域の特徴

三重県北西部に位置する伊賀市は、伊賀牛や伊賀米を育む豊かな自然に恵まれ、忍者や松尾芭蕉の生誕の地としても知られる文化都市です。人口約8万人の市で、伊賀市文化会館をはじめ市内の多くの施設を管理し、地域住民の芸術文化の普及・振興と地域の教育・福祉の向上に取り組んでいるのが、公益財団法人伊賀市文化都市協会（以下、文都）。伊賀市と隣接する名張市をあわせて「伊賀地域」と呼ばれ、「地域住民」という言葉が、伊賀市民だけでなく名張市民を指すことも。今回の事業実施先である特別支援学校・伊賀つばさ学園も名張市にあり、両市から生徒が通っています。また今回訪問した放課後等デイサービスも1か所は伊賀市、もう1か所は名張市でした。

伊賀市文化会館では0歳から発達段階に応じたコンサートを開催し、小中学生対象のアウトリーチで伊賀市内の子どもたちに芸術文化を届ける活動を続けています。本事業を3年間継続した後は、文化会館で障がいのある方を対象にした事業の実施も検討されています。

●今回のアウトリーチの概要

今回は、2日間で計4回（特別支援学校高等部対象2回、放課後等デイサービス2施設で小学生対象各1回）のアウトリーチを行いました。ヴァイオリニストの石上真由子さんは、事前に基本的な構成を準備しつつ、当日は子どもたちの様子を見ながら演奏曲を柔軟に選び進行していただきました。ヴァイオリンならではの技巧や音色を生かしたプログラムにより、子どもたちに濃密な時間を過ごしてもらうことができました。特に伊賀つばさ学園では、初日の気づきを踏まえて2日目に曲順を調整したことで、子どもたちの集中力がより高まり、静かな曲にもじっと耳を傾ける姿が見られました。

●今後に向けた課題

1. 下見による対象者の様子の把握

放課後等デイサービスのアウトリーチでは、実施会場までの移動途中、廊下に面した部屋から飛び出してきた子どもが、アーティストの楽器に触れてしまう出来事がありました。本事業の全体研修会では「触れてほしくない楽器がある場合の対応」について検討し、会場内での見守り体制も確認していましたが、当日の会場使用時間が下見時の説明と異なっていたため、会場に入る段取りが変わり、想定外の状況が生じてしまいました。楽器に損傷はありませんでしたが、その後のアウトリーチではスタッフが子どもの突発的な動きに敏感にならざるを得ませんでした。また、同じ子どもでも学校の授業と放課後等デイサービスでは雰囲気やテンションが大きく異なることも分かりました。今回の施設では下見の際に子どもたちの様子を観察できなかったのですが、できれば普段の過ごし方を事前に把握しておくことが望ましいと感じました。アーティスト同行の下見は人数が多くなりがちのため、主催施設側が機会を見つけて少人数で、アウトリーチ実施時間帯の様子を確認しておくのもよいかもしれません。

2. 施設と対象者に適したアーティストや楽器の選定

本事業が初年度だった今回は、派遣アーティストが先に決まり、その後に実施施設と対象者が決まる流れになりましたが、施設の特長や対象者の状況に合わせてアーティストや楽器を選ぶ方が望ましいという振り返りがありました。今後は年間スケジュールを見直すということなので徐々に改善していけるとよいと思います。

課題はありましたが、放課後等デイサービスのアウトリーチでも、石上さんとピアニストの金澤みなつさんが奏でる極上の音楽を、子どもたちが思い思いの場所で好きな姿勢のまま自由に聴く姿を見て、普段過ごしている空間の中で、それぞれが自分のペースで音楽を受け入れる時間が生まれていたことは、今回の事業の大きな価値のひとつだったと感じられました。子どもたちをしっかりと見て最高の音楽を届けてくれたアーティスト、忙しい中、新しい事業に意欲的に取り組んだ文都スタッフ、地域創造の担当者の皆さまのおかげで、対象の子どもたちにとって大変貴重で意義のある機会となったのは間違いありません。

倉敷市玉島市民交流センター 実施データ

実施団体	玉島テレビ放送・JFE 西日本ジーエス共同事業体
実施ホール	倉敷市玉島市民交流センター
実施期間	1回目 令和7年10月28日(火) 2回目 令和8年2月4日(水)～2月6日(金)
アーティスト等	アーティスト：野尻小矢佳 伴奏共演者：(1回目)磯田日向子(パーカッション)、(2回目)吉岡次郎(フルート)
<p>■下見内容(月日(曜日)、内容)</p> <p>6月16日(月) 上成小学校 下見・打合せ 6月17日(火) 倉敷支援学校、乙島東小 下見・打合せ 6月18日(水) 玉島南小学校 下見・打合せ</p> <p>■1回目内容(実施日時(曜日)、団体名等、対象、参加人数、会場)</p> <p>10月28日(火) 10:45～11:30、玉島南小学校、特別支援学級1～6年生、8名、ひまわりA(教室)</p> <p>■2回目内容(実施日時(曜日)、団体名等、対象、参加人数、会場)</p> <p>2月4日(水) 10:45～11:30、11:40～12:25、上成小学校、特別支援学級1～6年生、13名、音楽室 2月5日(木) 11:00～11:45、13:30～14:15、倉敷支援学校、高等部3年生、26名、体育館 2月6日(金) 10:40～11:25、11:35～12:20、乙島東小学校、特別支援学級1～6年生、8名、音楽室</p>	

スケジュール

派遣 回 月日	下見			実施期間(1回目)			実施期間(2回目)				
	6/16(月)	6/17(火)	6/18(水)	10/27(月)	10/28(火)	10/29(水)	2/3(火)	2/4(水)	2/5(木)	2/6(金)	
8:00					移動			移動		移動	
9:00		移動	移動		搬入・リハ	移動		搬入・リハ	搬入・リハ	搬入・リハ	
10:00	移動	倉敷支援 学校 下見	打合せ	移動	玉島南 小学校 本番	打合せ		上成小学校 本番 ①②	倉敷支援 学校本番①	乙島東 小学校 本番 ①②	
11:00		移動			搬出	移動			搬出	休憩	搬出
12:00		休憩	休憩		移動	休憩			移動	休憩	搬出
13:00			移動		休憩	移動	移動	倉敷支援 学校本番②	移動		
14:00		玉島南 小学校 下見			移動		休憩	搬出	休憩		
15:00	上成小学校 下見	移動	移動	打合せ リハ	打合せ		打合せ	フィード バック 打合せ	打合せ		
16:00	移動	乙島東 小学校 下見		移動	移動		打合せ	移動	移動	移動	
17:00	職員、関係者 向け体験会	移動						リハ	移動		
18:00	移動					移動	意見交換会				
19:00											
20:00											

アウトリーチの概要

玉島南小学校アウトリーチ

10月28日(火) 10:45～11:30

対象：特別支援学級 1～6年生

会場：ひまわりA(教室)

参加者：8名

1コマ、WSのみの開催。

黒板に掲示した模造紙のイラストを使用しアーティスト、スタッフの紹介→楽器を一緒に組立て→マリimbaに息を吹きかけて音を鳴らしたり、演奏している時に下をくぐったり→スチールパンにスーパーボールを転がして音を出すなど

集中が5分と持たない子がいるとの事であったが、短いスパンで多くの内容を実施することで全員が終始楽しく参加出来ていた様に感じた。

また同日、直前の時間に全校での芸術鑑賞会が実施され、対象の児童も参加していたが、アウトリーチでは芸術鑑賞会とは異なる自分達の為の時間を安心して過ごしていた様に感じた。



上成小学校アウトリーチ

2月4日(水) ① 10:45～11:30、② 11:40～12:25

対象：特別支援学級 1～6年生

会場：音楽室

参加者：13名

1コマ目 WS

アーティストが教室へ児童をお迎えに行き、一緒に音楽室へ移動→エッグシェイカーのシャカシャカ音でリズム体験→好きな楽器を選んでもらう→一緒にアンサンブル体験

→海をテーマに楽曲を演奏、情景を想像してセロファンシートを貼り合わせてちぎり絵を制作

2コマ目コンサート「おんがくのたび」

様々な国の楽曲を演奏。演奏を聴くだけでなく、手拍子や、足踏みで13拍子のリズムを体験する内容も実施。

移動教室が苦手な参加が難しい児童が居るとの事前情報があった。しかし、教室で行った音に触れる体験あたりから一気に意識が楽器やアーティストの方へ。結果的に音楽室でのアウトリーチ2コマともに参加していた。

ちぎり絵は特別支援学級全体での制作経験があるとの事だった為、WSに取り入れた。色を選んだり重ねたりして自分たちの海を表現した。



倉敷支援学校アウトリーチ

2月5日(木) ① 11:00～11:45、② 13:30～14:15

対象：高等部3年生

会場：体育館

参加者：26名

1コマ目 WS

自己紹介→ストレッチ、リズムに合わせて足踏み→楽器紹介(ブルブル、ゆらゆら音の振動に触れる体験)→みんなで森の音を作る→楽器を選んでみんなでアンサンブル→パレード→バスケットボールを使ったリズム演奏→学校にある楽器を散りばめて自由に鳴らしながらパレード

2コマ目コンサート「おとのたび」

様々な国の楽曲を演奏。

学校卒業後はほとんどの生徒が就職し、変化のあまりない生活を送る事が多いと先生からお話があり、卒業前の楽しみ、また卒業後もコンサート等に参加するきっかけになればと思い実施。思春期という事や日常生活での失敗経験などからあまり積極的に自己表現をしない学生が多いという話であったが、WSではどの学生も意欲的に参加していた。特にパレード形式で体育館をグルグル回るWSが楽しかったという感想が多く、普段の姿との違いに先生方も大変驚かされていた。



乙島東小学校アウトリーチ

2月6日(金) ① 10:40～11:25、② 11:35～12:20

対象：特別支援学級 1～6年生

会場：音楽室

参加者：8名

1コマ目 WS

エッグシェイカーを椅子に置いた状態でスタート→自己紹介→リズムに合わせてシャカシャカ→楽器の振動に触れる体験→好きな楽器を選んでリズム体験→楽器紹介→パレード→海の音

2コマ目コンサート「おとのたび」

様々な国の楽曲を演奏。コンサート後は給食の時間になる為、最後はスプーンを使った演奏を披露し気持ちを給食に向けて終了。

WSではどの児童も積極的に参加。お祭りが盛んな地域という事もあり、太鼓のリズムを楽しんでいた。楽器に関心を持つ子も多く休憩時間も楽器に触れていた。

終了後は子どもたちから自発的に感想発表を始めたが、普段こんな事はないと担任の先生が驚かされていた。



2月4日（水）上成小学校 特別支援学級1～6年生

事前にアーティストからのお手紙動画を学校へ送付
→当日までに視聴

WS（1コマ目）

●教室へアーティストがお迎え ～ 音楽室へ移動

教室に集合した状態でスタート → モニターにアーティストの映像を映した隣で自己紹介 → ジャンベやカリンバを鳴らしてその振動を手や体で感じてもらう → 児童にエッグシェイカーを配布し一緒に音楽室へ移動

移動教室が苦手に参加出来ない子が居るとの事前情報があった。最初は教室の隅の方に居たが徐々に意識が向いて来て、最終的には音楽室でのWSへも参加出来た。

●体も使いながらリズム体験

音楽室到着後、輪になってエッグシェイカーのシャカシャカ音でリズム体験 → 好きな楽器を選んでもらう → 一緒にアンサンブル体験

どの児童も積極的に好きな音、楽器を選んで参加していた。

中にはリズムに合わせて踊り始めたり、普段とは異なる一面を見せる児童の姿もあった。

●ちぎり絵

海をテーマに楽曲を演奏、情景を想像してセロファンシートを貼り合わせてちぎり絵を制作。

特別支援学級としてちぎり絵の制作経験があるとの事だった為、WSに取り入れた。色を選んだり重ねたりして自分たちの海を表現した。

コンサート（2コマ目）

●コンサート「おんがくのたび」

学校 → 電車 → カリブ → 楽器紹介 → インド → 電車 → トルコ → 楽器紹介 → ブルガリア → 北極 → 電車 → 学校 の流れ音楽で世界の旅へ出発。

演奏では長めの楽曲もあったが、同じメロディがループする曲や、民謡を取り入れることで、知らない曲であってもどこことなく知っている感覚を覚え、児童たちは徐々に集中していった。

●13拍子のリズムに挑戦

ブルガリアの民俗舞踊曲「クリボ・サドフスコ・ホロ」にあわせてサルサルサルタヌキワニワニのリズムで足踏みをしたり、手を叩いたりして体を動かしながら楽しんだ。

旅から帰ってきた最後の演奏曲の前には深呼吸の時間を入れるなど、リラックスして次の時間を迎えらる様な形でコンサートを終了した。



●この事業への応募動機

玉島市民交流センターでは2015年よりアウトリーチを実施し、玉島地区の小学校を中心に現在も訪問を続けています。

通常級のアウトリーチや芸術鑑賞会には参加するハードルが高く難しいという特別支援学校、特別支援学級の子どもたちにも周囲を気にすることなく純粋に、自由に音楽に親しんでもらう機会を提供したいと思い本事業に応募しました。

●事業のねらいと企画のポイント

当館では毎月ロビーコンサートを開催しており、障がいのある方が聴きに來られているが、いつも他の来場者へ遠慮して端の方で聴いています。本事業を通じて支援学校や特別支援学級を訪問し、自分たちの為の時間であるアウトリーチを通じて安心して自己表現を楽しむことのできる音楽の場を提供する。そして将来的にホールへ足を運ぶ為の第一歩となる様なアウトリーチにしたいと考えました。

●企画実施において苦労した点

まず、打合せではどの会場、どのレイアウトがリラックスできるのか、教室の机や椅子は動かしていいのか、入ってはいけない自分たちだけのエリアがあるのかなどの確認を行いながらアウトリーチ会場を選定しました。そして、どんな活動をしている時期なのかといった事、アウトリーチ前後の時間の過ごし方や精神的な部分も含めた参加者の様子の変化については当日まで定期的に訪問先の先生と連絡を取りました。また、知らない大人が急に來ることへの抵抗を減らすために、アーティストからのあいさつ動画を事前に送付し視聴してもらうなど、本番までの間に参加者へ慣らしの時間を設けました。倉敷支援学校では、出席予定だった参加者が急な体調変動により直前に欠席となり、予定していたプログラムを大きく変更するというイレギュラーも発生しましたが、アーティストの柔軟な対応で乗り越えることが出来ました。

●事業を実施しての成果と課題

上成小学校では移動教室が苦手で教室外での活動への参加が難しい児童が居り、当日もビデオ通話で音楽室と教室を繋いでいました。しかしアーティストが教室へお迎えに行くと他の児童と一緒に音楽室へ移動し2コマのアウトリーチに終始笑顔で参加していました。また、高等部3年の生徒を対象に開催した倉敷支援学校のアウトリーチでは、思春期である事や過去の失敗経験から表現する事が苦手になっていた子どもたちが、WSで積極的に太鼓を叩く姿がありました。いずれの訪問先でも普段の学校生活とは異なる様子の子どもたちを目にした先生方がとても驚かれていたのが印象的でした。しかし一方で、ストップ付近へ着席していた聴覚過敏な参加者がモーター音をストレスに感じてしまう事があり、私共職員の勉強不足を感じました。今後はもっと安心感をもって参加してもらえる様、環境づくりへ配慮したいと思います。

●今後の事業展開や展望

今回は全てアウトリーチ形式で開催しましたが、いずれの訪問先でも参加者が自発的にWSに取り組んだり、演奏に聴き入る姿があり、楽器や音楽の魅力を感じてもらえる事が出来たのではないかと感じています。今後の展開としてはアウトリーチだけでなく、ホールで行うインリーチを開催したいと考えています。実際に足を運んでもらう事で、少しでもホールへ行くという事へのハードルを下げる。また、ホール職員の経験値を増やすことで障がいのある方を受け入れる環境を整備し、誰に対しても開かれたホールとなる事を目指します。その他にも地元で演奏活動を行っているアーティストの育成にも取り組み、アウトリーチやインリーチを継続的に開催出来る環境づくりを並行して進めていきたいと思っています。

公共ホール音楽活性化事業（障がい者関連プログラム）の初年度が始まった。この事業は通常のおんかつとは違い、アウトリーチで訪問する施設は特別支援クラスや特別支援学校の子どもたちであり、また何らかの障がいのある方々に対して、アーティストとしての存在と音楽を通してワークショップ等を実施するもので、ホールコンサート等は実施しない事業スキームになっている。まさにアーティストが障がいのある方々に寄り添ったプログラムを提供することでより良い時間を創り出し、子どもたちをはじめ参加して頂いた皆さんが、音楽を楽しく感じながらイマジネーションを喚起され、自らの可能性や変化を創りだしてもらう事が目的の事業である。もちろん前提にはコーディネートするホールの経験値を上げることでスタッフの皆さんがスキルアップすることや、ホールの目的を明確化しこの先の事業に役立ててもらおう事である。

当事業のトップバッターとして岡山県倉敷市の玉島地区にある玉島市民交流センターが実施することになった。ホールの目的は、ホールやロビーで実施するコンサートに障がいのある方々にも多く来場して頂き、音楽を楽しんで欲しいということであった。いま全国のホール・劇場が取り組んでいる「誰もが楽しめるコンサート」いわばインクルーシブなコンサートを実現したいということである。そのためにまずはスタッフのスキルアップと学校や施設との関係づくり信頼づくりのアウトリーチの実施であった。

今回組むアーティストは打楽器演奏者の野尻小矢佳さん。野尻さんは障がいのある方々とのワークショップを以前から行っており、演奏者としての実力とともに障がいのある方々に向き合う知識と共にワークに対する高いスキルとプログラムを持っており、プログラムにおいては実施する学校や施設の状況によって複数の提案をして頂くことが出来た。

そのなかでも野尻さんが子どもたち一人一人の状態に対し丁寧に配慮され、集中力が続かない子どもたちのために、短時間のプログラムを重ねること。音楽室でアウトリーチを行うことで進んでいるなか、教室から出られない生徒のために楽器を持って教室までお迎えに行き、まずは音楽の楽しさを受け止めて貰う事を優先することなど、柔軟なプログラム進行であった。アウトリーチの時間においても楽器とのふれあい、そして子どもたちが演奏や音作りに参加することで、教える教えられるという垣根を超えた関係づくりが生まれていた。また、実施する場の状況と環境もプログラムに利用するなど柔軟な進行が際立ったものであった。

今回それぞれの違った現場において先生をはじめ関係者とアーティストによって多岐にわたる打ち合わせを行った。そしてそれを基に実施に向かって多くの対応を行い、その答え合わせとしてアウトリーチの実施現場に立ち会ったホール担当者が、今回の施設の要望や状況とアーティストまた障がいのある方々へのファシリテーターとしての立場からの要望を踏まえ、ホールとして何を優先的に進め何を選択し判断していかなければならないかという事が、少しでも理解すると共に考えることが出来たのではないだろうか。来年度はホールという現場をどのように生かすことが出来るかが、本来の目的に向かって進むことであり、この事業に参加した結果を視覚化出来ることになると思う。

荘銀タクト鶴岡（鶴岡市文化会館） 実施データ

実施団体	タクトつるおか共同企業体
実施ホール	荘銀タクト鶴岡（鶴岡市文化会館）
実施期間	1回目 令和8年1月27日（火）～1月29日（木） 2回目 令和8年3月3日（火）
アーティスト等	アーティスト：セレノグラフィカ
<p>■下見内容（月日（曜日）、内容）</p> <p>12月11日（木） 養護学校会場下見・職員向け体験ワークショップ、全体打ち合わせ 12月12日（金） 障害者相談支援センター長との打ち合わせ、全体打ち合わせ</p> <p>■1回目内容（実施日時（曜日）、団体名等、対象、参加人数、会場）</p> <p>1月27日（火） 14：00～15：30、施設職員や関係者、12名、荘銀タクト鶴岡 小ホール 1月28日（水） 10：20～11：05、山形県立鶴岡養護学校、小学部1～2年生、16名、体育館 1月29日（木） 10：20～11：05、山形県立鶴岡養護学校、小学部3～4年生、12名、プレイルーム 1月29日（木） 13：10～13：55、山形県立鶴岡養護学校、小学部5～6年生、22名、体育館</p> <p>■2回目内容（実施日時（曜日）、団体名等、対象、参加人数、会場）</p> <p>3月3日（火） 13：00～14：00、鶴岡 DARC、利用者と職員、30名、荘銀タクト鶴岡 小ホール 3月3日（火） 15：45～16：30、鶴岡市立愛光園、利用者と職員、23名、体育館</p>	

スケジュール

派遣 月日	下見		実施期間（1回目）				実施期間（2回目）		
	12/11(木)	12/12(金)	1/27(火)	1/28(水)	1/29(木)	1/30(金)	3/2(月)	3/3(火)	3/4(水)
9:00				入り	入り				
10:00		支援センター 長打ち合わせ		養護学校①	養護学校②			入り	会場入り 振り返り会
11:00			鶴岡着			鶴岡発		昼食	
12:00	鶴岡着	昼食	昼食	昼食	昼食		鶴岡着		鶴岡発
13:00	養護学校 授業見学	全体 打ち合わせ	打ち合わせ	打ち合わせ 取材対応	養護学校③		昼食	鶴岡 DARC	
14:00	体験 WS		施設職員		振り返り会		打ち合わせ 翌日準備	移動	
15:00	打ち合わせ	鶴岡発						入り 愛光園	
16:00	移動 全体打ち合わせ		打ち合わせ						
17:00								移動	
18:00									
19:00									
20:00									
21:00									

アウトリーチの概要

施設職員向けアウトリーチ

1月27日（火） 14：00～15：30

対 象：市内の福祉施設職員や関係者

会 場：荘銀タクト鶴岡 小ホール

参加者：12名

福祉施設との関わりが乏しかったため、当館の取組みを知っていただけるよう企画した。障害者相談支援センターの協力を得て公募チラシをメール送信したものの反応が薄く、当日に電話で参加者を募ることとなった。

短い時間ではあったがダンスワークショップを体験いただき、後半は感想や質問を交わす時間を設けた。「タクトがこのような取組みを行っているの知らなかった。勤めている施設でも実施してほしい」などとの声があがり、実際に帰りにアウトリーチ実施希望をいただくことができ、実際に体験する機会を設けることの効果と意義を実感することができた。



『タクトでおじゃま』ダンスアウトリーチ

1月28日（水） 10：20～11：05

対 象：山形県立鶴岡養護学校（小学部1～2年生）

会 場：体育館

参加者：16名

以前にアウトリーチ先として選定していたものの実施が叶わず、2年越しに訪れることができた。今回は小さい頃からダンスにふれていただき、自身の可能性を拓いてほしいという思いから小学部の全学年を対象とした。

この回の対象となる小学部の1・2年生の子ども達は始まる前からセレノグラフィカのお2人に興味津々な様子で、素直な反応でダンスを楽しんでいる様子が印象的だった。会場内の離れた場所にいた児童も時おり音楽に合わせてリズムを取っていたり、それぞれの参加の仕方のある、良い意味でゆるい雰囲気が参加者の安心感につながっていたのではないかなと思う。



『タクトでおじゃま』ダンスアウトリーチ

1月29日（木） 10：20～11：05

対 象：山形県立鶴岡養護学校（小学部3～4年生）

会 場：プレイルーム

参加者：12名

鶴岡養護学校の小学部3・4年生を対象にアウトリーチを実施した。会場は小規模なプレイルームで実施した。初めはセレノグラフィカのお2人と距離があった生徒たちだが、小規模な空間ということもあり密接なコミュニケーションを図ることができ、次第に心が打ち解けていくのを感じた。ずっと会場内を走り回っている児童もいたが、他の児童の動きや表現に興味を持っている様子が見られた。また、担任の先生方の積極的に子ども達と一緒に楽しもうという空気感が全体に伝わり、一体感が生まれたアウトリーチになった。



『タクトでおじゃま』 ダンスアウトリーチ

1月29日(木) 13:10～13:55

対象：山形県立鶴岡養護学校(小学部5～6年生)

会場：体育館

参加者：22名

前日と同じく鶴岡養護学校の小学部5・6年生を対象にアウトリーチを実施した。落ち着いた雰囲気の子供が多かったが、実際にアウトリーチが始まるとほかの子供の動きや表現を見て、自分なりに身体を動かして楽しんでいるのが印象的だった。会場内の離れた場所にいた子供も、皆の様子に興味を持って徐々に近づいてきてくれた。無理に輪の中に入れようとするのではなく子どもの意思や余白の時間が大事だと感じた。

子ども達の障害の特性について、担任の先生と上手く意思疎通できていない部分があったため、もう少し密に情報共有ができていれば良かったと思った。



『タクトでおじゃま』 ダンスアウトリーチ

3月3日(火) 13:00～14:00

対象：鶴岡 DARC 利用者・職員

会場：荘銀タクト鶴岡 小ホール

参加者：30名

インリーチに参加いただいた職員が「施設が狭く身体をゆっくり伸ばせる時間がほしい」と希望され、当館の小ホール(平土間のスタジオ)を会場としてアウトリーチを実施した。

初めはとても緊張した面持ちの参加者も、セレノグラフィカのお二人の漫才のような進行に段々と笑顔になり、それに合わせて身体もリラックスしながら普段と違ったコミュニケーションを各々が楽しんでいる様子だった。

終了後には職員から「今度はもっと長い時間やってみたい」と感想をいただき、今後も継続できるような関係性を築くことができました。



『タクトでおじゃま』 ダンスアウトリーチ

3月3日(火) 15:45～16:30

対象：鶴岡市立愛光園 利用者・職員

会場：体育館

参加者：23名

こちらもインリーチに参加いただいた施設職員(ダンス経験者)が「様々な表現を利用者に体験してほしい」との思いでアウトリーチが実現した。

参加者は小学生から大人と幅広い年代となり、職員からも多く参加いただき終始アットホームな雰囲気の中で全員がダンスを思い切り楽しむことのできた時間となった。

職員との振り返りでは「普段は前に出るのが苦手なのに、今日初めて前で踊っている姿を見られた」といった声をいただき、改めてダンスの魅力を実感したアウトリーチであった。



3月3日(火) 鶴岡 DARC 利用者・職員

●はじめまして～ダンスのてあらいうがい

初めての空間にとっても緊張した面持ち・雰囲気から始まった鶴岡 DARC の利用者・職員を対象としたアウトリーチ。受付で書いてもらった名札の名前を読み上げ、目を合わせながら一人ずつ「はじめまして」。セレノグラフィカのお2人のみならず職員も全員の名前を紹介したところで身体をほぐすワークからスタート。普段あまり触らない部分(耳や鎖骨など)をじんわり温めることで少しずつ身体がゆるんできている様子がみられた。

●歩いてみよう～ストップアンドゴー

身体がほぐれた後は全員で立ち上がって会場内をくまなく歩きまわる。しばらく歩いたら、すれ違う人とハイタッチなどコンタクトを取るリクエストが追加される。ここで一気に場の雰囲気が和らいだように思えたのが印象的だった。また、音楽が止まると同時に歩くのも止まるのを繰り返した後、ストップする際にお題に沿ったポーズを決める。だんだんと気持ちも乗ってきたのか、参加者の個性があらわれるポーズがどんどん見られた。

●ひとさし指をおいかけて

2人1組が向かい合わせになり、人差し指を使ってリードする/追いかけるプログラム。最初は座ったままだったが、だんだんと自熱して立ち上がって自由に動き回るペアも。途中で役割を交代したり、自然な流れでペアが入れ替わったり合体したり。全員が思い切り楽しむ姿に加えて、指と指の間に関係性が見えてくるような、思わず見入ってしまう時間だった。

●ごろんリラックス

「施設は狭くて、リラックスできる時間がほしい」という施設職員からのリクエストに応えた、各々が横になって身体をゆっくり休ませる時間。「ダンスのてあらいうがい」の後にも同様の時間を設けていたが、後半の方がリラックスできている様子だった。

●おわりのあいさつ

セレノグラフィカのお2人の優しい声かけですべてのプログラムは終了。一人ひとりをお見送りをする際は、序盤の硬い表情からは想像もできないくらい笑顔で感謝の言葉を交わしていて、あたたかな雰囲気に包まれるアウトリーチとなった。



●この事業への応募動機

当館では開館当初から公共ホール現代ダンス活性化事業、及び支援事業に取り組んできた。それ以外でもダンスアウトリーチや公演を継続的にを行い、これまであまり馴染みのなかったコンテンポラリーダンスが地域に少しずつ浸透しているのを実感している。

しかし一方で、障害によりホールに出向くのが難しい方々が生の文化芸術に触れることのできる環境づくりは不十分だと感じている。令和5年度からは視覚や聴覚に障害のある方への公演鑑賞サポートを取り入れているものの、参加・育成の面では実施回数やノウハウが不足していたため、誰もが文化芸術を創造し享受することができる地域社会の実現のため障がい者関連事業へ応募した。

●事業のねらいと企画のポイント

上記した公演鑑賞サポートでは市福祉課や社会福祉協議会などの団体との協力体制を構築している中だったが、市内の福祉施設との関係がほとんどなかったため、まずは何かしらの方法で「はじめまして」のアプローチを行いたいと考えていた。この点に関しては以前から相談に乗ってくださっていた鶴岡市障害者相談支援センターの所長さんを交えた下見時の打ち合わせの際に、施設職員向けのインリーチを提案いただき1回目派遣の初日に実施することができた。

鶴岡養護学校については以前、助成（芸術家の派遣事業）を利用したアウトリーチを提案していたが実施が叶わず、今回の障がい者関連事業を活用して実現したく思っていた。小学部～高等部のある学校であるため対象の選定に悩んだが、児童期にダンスに触れてほしいという想いもあり、学校の先生たちと相談しながら小学部を対象とすることとした。

●企画実施において苦労した点

打ち合わせや下見の際に、参加者の障害特性など、どの程度まで踏み込んで聞いていいのか迷う場面が多々あった。特に2回目の実施では、スケジュールがタイトだったこともあり、アーティストへの情報共有を十分に行うことができなかった。この点については、事前準備の段階から余裕をもったスケジュールを設定し、アーティストやコーディネーター、施設職員との間で事前に丁寧な情報共有を行うべきだったと反省している。

また、施設職員向けについては障害者相談支援センターの協力を得て市内の福祉施設へメールでチラシを送っていただいたが、前日まで申込みはゼロであった。当日朝にあらゆる施設へ電話をかけ、職員へ説明を行い何とか参加者を集めることとなった。周知を行った後に反応がありそうな施設へ再プッシュするなどの手立てが必要であった。

●事業を実施しての成果と課題

施設職員・関係者向けの実施は参加者集めに苦労したが、そこから2施設へのアウトリーチが決まったことは大きな成果となった。ダンスアウトリーチといってもどのような内容なのか、実際の体験を通してアウトリーチに対するイメージを掴んでいただくことのできる機会になった。実施に至らなかった施設についても実施に関しての感想や質問を直接アーティストに伝えることができ、今後につながる関係性を築くことができたのではないかと考える。

課題としては苦労した点で前述したとおり、参加者を公募する際の周知の仕方はより効果的な方法があったのではないかとと思う。伝えたい内容を整理し、言葉で伝える、当たり前のことではあるがその重要性を強く感じた。

●今後の事業展開や展望

今回のダン活でできた市内施設や団体との関係を途絶えさせず、アーティストやコーディネーターと相談しながら何かしら発展した形でアウトリーチを継続していきたい。そして施設へ何うだけでなく、ホールへ来て舞台上に立つ楽しさを味わっていただきたいという想いもあるため、段階を踏みながら実現へ向けて企画を練っていきたい。

また、今年度は取り組めなかったが、地域アシスタントとしてセレノグラフィカとアウトリーチを行ってきたダンサーのファシリテーターとしての育成についてもご本人たちと意見を交わしながら良い方向を探っていきたいと考えている。

これまで荘銀タクト鶴岡では、障害のある人を対象としたアウトリーチ事業の実績があり、セレノグラフィカとの協働の経験もあった。一方で、養護学校でのアウトリーチは未経験であった。荘銀タクト鶴岡としては、劇場イベントに障害のある人の参加が少ないと感じており、参加の促進には地域の養護学校や障害者団体との関係づくりが必要と考えていた。打合せでは、アウトリーチ事業を通じ、ダンスの楽しさや可能性を感じることで舞台芸術との心理的距離を縮め、来館のきっかけをつくるという方針が話された。また、遠方で劇場へアクセスしにくい温海地区の事業所を対象に調整を進めたが、事業所側から高齢の利用者への負担の懸念が示され、今回は見送られた。そのため社会福祉協議会と連携し、アウトリーチを希望する障害者団体を公募する形に変更した。1月に養護学校、3月に障害者施設でアウトリーチを実施するというスケジュールになった。

12月、山形県立鶴岡養護学校の小学部1～6年生の授業を見学し、終了後には教員向けの事前ダンスワークショップを行った。その後、生徒の障害状況や興味関心、実施内容について教員から意見を伺った。教員の参加の様子や感想から、この事前ワークショップが一般的な「ダンス」のイメージを払拭し内容の理解を促すのに有効な手立てと考え、1月の養護学校でのアウトリーチとは別に、障害者施設職員向けの体験ワークショップも行うことで参加への促進につながることを目指した。

1月末、施設職員向け体験ワークショップを荘銀タクト鶴岡で行った。セレノグラフィカのお二人の漫才のような掛け合いの中、身体をほぐし、日常の動作がダンスになるにつれ、場は和やかな雰囲気包まれた。終了後には、参加者から「難しいイメージだったけど、楽しく参加できた」といった感想や「狭い場所でもできますか？」などの質問も挙がった。こうした素朴な疑問に答えることで参加へのハードルが下がり、「鶴岡市立愛光園」と「鶴岡 DARC」での実施へとつながった。

翌日からは鶴岡養護学校でのアウトリーチが始まった。1・2年生、3・4年生、5・6年生の2学年ごとに行い、各回10～20名の生徒が参加した。ワークショップ実施にあたり、内容を紙に書いて掲示し、進行の見通しを持って工夫をした。1・2年生との回では集団から離れて眺める生徒もいたが、離れていながらも動きを真似るなど、本人のパーソナルスペースを保って参加する様子が見られた。3・4年生では、教員の積極性と生徒の行動を抑制しすぎない関わりが全体を盛り上げていた。5・6年生では、前に出た人の動きを真似るワークを車椅子の生徒が行った。静かなクラシック音楽が流れると曲に合わせ、緩やかに身体を動かす姿が見られた。そうした感性を垣間見られたことは有意義な出来事だった。隅地さんが言った「賑やかに身体を動かすだけでなく、静かな曲から動きを感じる機会を持つことも思春期を迎える生徒にとって大事なこと」という言葉が印象に残った。ワークショップの盛り上がりを目を向けがちだが、緩やかな時間、視線の動き、指のささやかな動きにも“ダンス”が宿っていることを意識させられた。

3月、「鶴岡 DARC」とのアウトリーチは劇場の小ホールで行った。参加者30名の多くは50代前後の男性だった。広い空間を活かし、床に横になるワークから始まった。年代的に馴染みのある曲を聴きつつ身体をほぐしていくと参加者の表情も和らいでいき、車椅子の方が隅地さんと中央で踊るなど、次第に参加者の積極性が見えはじめていった。終了後には次回を期待する声も聞かれた。その後、鶴岡市立愛光園へ移動し、施設利用者や放課後等デイサービスの子どもたち19名とワークショップを行った。参加者の盛り上がりに合わせて、柔軟に内容を調整しながら進めた。見学のご家族からは「息子の普段見ない様子を見られて良かった」との感想ももらった。

いずれの回も、集団に混じることが難しい参加者がいた。しかし、遠くで眺めながらも皆の動きに合わせて身体を動かしたり、近づく姿が見られた。アーティストだけでなく関わる人たち全員の間をつくる意識が、参加者のこうした姿（ダンス）を生み出すように感じた。場づくりの意識は、その都度の振り返りで話される参加者それぞれの「気づき」によって育まれていくのだと思う。実践と振り返りを継続することが、思いもしない道へとつながるかもしれない。

今後の課題としては、アウトリーチの継続と共に劇場での発表など来館の機会を作ること、そして地元のアーティストとの連携など次世代の育成が必要との意見が挙がった。

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 実施データ

実施団体	公益財団法人豊橋文化振興財団
実施ホール	穂の国とよはし芸術劇場 PLAT
実施期間	1回目 令和8年1月13日(火)～1月14日(水) 2回目 令和8年2月17日(火)～2月18日(水)
アーティスト等	アーティスト：田畑真希 アシスタント：(1回目) 武徹太郎、加藤律、(2回目) 多久和千絵、王下貴司
<p>■ 下見内容 (月日 (曜日)、内容)</p> <p>7月15日(火) 全体打ち合わせ 7月16日(水) 愛知県立豊橋聾学校、就労支援施設「陸」にて、担当者との打合せとワークショップ会場予定場所の下見</p> <p>■ 1回目内容 (実施日時 (曜日)、団体名等、対象、参加人数、会場)</p> <p>1月13日(火) 13:30～14:30、NPO法人てのひら、就労支援施設「陸」利用者、11名、就労支援施設「陸」 1月14日(水) 9:45～10:30、愛知県立豊橋聾学校、小学3年生～6年生、7名、プレイルーム 1月14日(水) 10:40～11:25、愛知県立豊橋聾学校、小学1年生～2年生、3名、プレイルーム</p> <p>■ 2回目内容 (実施日時 (曜日)、団体名等、対象、参加人数、会場)</p> <p>2月17日(火) 13:30～14:30、NPO法人てのひら、就労支援施設「陸」利用者、6名、穂の国とよはし芸術劇場 主ホール 2月18日(水) 9:45～10:30、愛知県立豊橋聾学校、小学3年生～6年生、7名、音楽室 2月18日(水) 10:40～11:25、愛知県立豊橋聾学校、小学1年生～2年生、4名、音楽室</p>	

スケジュール

派遣回 月日	下見		実施期間 (1回目)			実施期間 (2回目)		
	7/15(火)	7/16(水)	1/12(月)	1/13(火)	1/14(水)	2/16(月)	2/17(火)	2/18(水)
9:00		聾学校 授業見学			劇場出発 学校到着	講師等移動のみ		劇場出発 学校到着
10:00		聾学校打合せ			ワークショップ 豊橋聾学校① 豊橋聾学校②		劇場集合 打合せ	ワークショップ 豊橋聾学校③ 豊橋聾学校④
11:00				先生との 振り返り				先生との 振り返り
12:00				劇場集合 劇場出発	学校出発			学校出発
13:00				陸到着			劇場到着	
14:00		就労支援施設 「陸」 下見、打合せ		てのひらワーク ショップ①	全体フィード バック		てのひらワーク ショップ②	全体フィード バック
15:00				フィードバック			フィードバック	終了
16:00				陸出発				
17:00	打合せ		打合せ	フィードバック				
18:00								
19:00								
20:00								
21:00								

アウトリーチの概要

NPO 法人てのひら アウトリーチ

① 1月13日(火) 13:30～14:30、② 2月17日(火) 13:30～14:30

対 象：NPO 法人てのひら

会 場：①就労支援施設「陸」、②穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 主ホール

参加者：① 11名、② 6名

1月 WS

視覚に障がいのある方を対象とした就労支援施設「陸」の一室でワークショップを行った。利用者の年齢層が中年～高齢者であったため、椅子に座っての活動を中心に展開した。アシスタントの音楽家が複数の楽器を持参し演奏したため、楽器に興味を持つ参加者もいた。終了後の振り返りでは、NPO 法人てのひらのスタッフの方の感想の中で、参加にあたり不安に思う気持ち強い参加者も多く、普段こういった活動に積極的に参加しない人が自ら参加し楽しめている様子に驚くとともに、嬉しかったという声が聞かれた。

2月 WS

2回目となる NPO 法人てのひらのワークショップは、会場を穂の国とよはし芸術劇場主ホール舞台上で実施した。視覚に障がいのある参加者へのサポート体制として、劇場スタッフのほかプラットの市民劇や人材育成事業に参加したメンバーも加わり、危険が少ないようにスタッフを配置した。前回からの参加者はより積極的に活動に参加していた。ワークショップの中で晴眼者がアイマスクをし、視覚障がい者とペアになって踊りを体験するなど新しい活動にも挑戦した。



豊橋聾学校 アウトリーチ

1月14日(水) ① 9:45～10:30、② 10:40～11:25

2月18日(水) ③ 9:45～10:30、④ 10:40～11:25

対 象：愛知県立豊橋聾学校 ①・③ 3～6年生、②・④ 1～2年生

会 場：①～②プレイルーム、③～④音楽室

参加者：① 7名、② 3名、③ 7名、④ 4名

1月 WS

聴覚に障がいのある小学生が通う愛知県立豊橋聾学校のプレイルームでワークショップを行った。穂の国とよはし芸術劇場では過去に1回豊橋聾学校の児童を対象としたダンスと音楽のワークショップを実施しており、これまで構築した関係性をさらに継続するために実施した。ワークショップでは、児童たちが目を引く楽器や講師らの身体の動きにすぐさま児童たちが引き込まれる様子が印象的だった。講師が手話で会話できること、ワークショップ中に呼ぶ名前の「手話ネーム」をつけることなど細やかな配慮があり、一体感を持った活動ができたといえる。

2月 WS

豊橋聾学校での2回目のワークショップは前回から時間が空いていないこともあり、児童の緊張感は少なく、ワークショップの時間を楽しみに待っていたように感じた。前回作った各自の手話ネームを振り返りつつ進行。相手にタッチする場面ではお互い痛くならないように優しくタッチするなど相手を意識する力がついているように感じた。また、ピアニストに興味を持った児童もおり、ダンス・音楽の両方への興味や関心に繋がったといえる。



1月13日(火) NPO 法人てのひら

●自己紹介、楽器紹介

会場となる就労支援施設「陸」の一室を会場としてアウトリーチワークショップを実施。まずは講師、アシスタント、コーディネーター、劇場スタッフ、地域創造スタッフの自己紹介を行う。音楽家の武徹太郎さんが持参した様々な楽器をエピソードを交えながら紹介し、講師の田畑真希さんが参加者に楽器を順番に触ってみるサポートをして緊張感をほぐしていった。

●ワークショップ開始。輪になってみんなで座る

参加者は中年～高齢者層が多かったこと、空間が決して広くはなかったことから、大きな輪を作るように椅子を並べて全員で座る。ゆっくりとおしゃべりをしながら、足首、手首、首をゆっくりと回していく。その後、田畑さんが「自分自身の耳と肩、おへそと太もも、肘と足の裏をくっつけて」という指示に合わせていろんな部位を動かしていく。途中、身体のいろんな部位のくっつけ方を発見する参加者の動きに対し、田畑さんが声に出してその特徴を紹介していた。また、ギター演奏も入りさらに大きな動きが出てくるようになった。

●休憩の合間に楽器体験

休憩時間に楽器に触ってみたい参加者が現れ、講師やスタッフがサポートしながら楽器の演奏体験をした。参加者自身から音楽活動をしていたエピソードも聞けて、話が広がった。

●ペアになって身体を動かしてみる

二人一組になり、各々の手のひら、肘、背中をくっつけて離れないようにゆっくりと動く。途中二人で回ったり高低差のある動きが生まれ、自然と踊っているように見えるシーンもあった。

田畑さんと参加者がペアになり、みんなの前で身体をくっつける動きを披露、ほかの参加者らは外からその様子を音や空気の流れを通して鑑賞した。動きを感じている人だけでなく、音を聴いて楽しんでいる人もおり、曲の調子(テンポやリズム)に合わせて動きに変化が生まれ、最後に田畑さんは「みんなダンスを踊っていた！」と感動されているようだった。

●クールダウンと振り返り

ワークがすべて終了したあとは、椅子に座って背伸びをしたり、リラックスした中で演奏を楽しんだ。参加者からの感想では「最初、ダンスと聞いた時には無理だと思っていたけれど、やってみると楽しく、気持ちが高揚した」「身体全体で息をしているような感覚」「見えない人のダンスってどうやるの?って思っていたが、楽しみにしていたし、実際楽しめた」という意見がでた。



1月14日（水） 愛知県立豊橋聾学校 小学部

●対象と時間割

同日に2回に分けて対象学年の異なる2グループに対して実施した。

1回目：9：45～10：30 対象：小学部3、4、6年生 7名

体育の授業の枠組みの中で実施。日直による授業開始の号令に続いて、劇場からの趣旨説明、講師が「自己紹介ダンス」や手話と体の動きを使った「手話ネーム」による自己紹介を行う。

楽器を紹介した後、音に合わせて講師の動きを真似る。足裏、手のタッチやゆっくり歩く・走る動きを重ねていき、児童たちもより楽しそうに参加すると共に、普段あまり動かない児童も参加しだす。

講師が動く様子を注意深く見て、ルールを見つけるワークを実施。講師による見本を見せた後、二人一組になり、片方の手の動きをもう一方が真似するというワークを言語で確認し合わずにやってみる。最初は主導する側を決めるが、徐々に交代の合図なしに相互の動きを交互に真似し合うことはできるようになった。その後、手だけでなく身体の様々な部位に移動させながら各々が自由に動いてみた。

床に寝て伸びをして、身体を撫でながらクールダウン。参加した児童からは、「楽しかった」「肘を見て動くのが難しかった」「いろいろ身体を使って、頭も使って楽しかった」という感想が寄せられた。

2回目：10：40～11：25 対象：小学1、2年生 3名

前半は1組目と同様の流れで進行する。途中から自分の手話ネームに独自の動き・ポーズを考えて、それらをつなげて一つのダンスを作り、最後に全員で一つのポーズを考えて、先生方や見学者に向けた発表を行う。

最後、互いの身体の一部をくっつけるワークを体験（例：頭とふくらはぎ、人差し指と人差し指）。お互いを意識しながら丁寧に活動する時間となった。

クールダウンの際に参加した児童からは、「ダンスが楽しかった」「面白かった」「ダンスを踊ったのかな？」という感想が寄せられた。



2月17日(火) NPO 法人てのひら

●事前準備及び穂の国とよはし芸術劇場に到着、準備

2回目のワークショップは穂の国とよはし芸術劇場主ホール舞台上に会場を移し、実施。ワークショップ開始前には講師やアシスタント、コーディネーターと劇場スタッフで事前準備を行い、床面に素材の異なるマットを敷くことで、足の感触で空間を把握できるように設えた。視覚に障がいのある参加者へのサポート体制として、劇場スタッフのほかプラットの市民劇や人材育成事業に参加したメンバーも加わり、危険が少ないようにスタッフを配置した。

参加者到着後、まずは会場内に設置したグランドピアノの近くに移動し、ピアノのふたを開け閉めして響きの違いに触れた。

●ワークショップ開始、2回目だからこそ展開

大きく輪になって椅子に座り、自分で身体をさする、手足をぶらぶらする、自分の名前を大きく手・足・おへそ・頭・耳で書いてみて、自分の名前から身体の動きを作る体験をする。参加者の中で前回も参加した人は、自分と相手の指をくっつけて動かすワークの内容を覚えていて講師の説明を聞く前に動けたり、さらに新たな動きを生み出していく様子も印象的だった。

●2グループに分かれ、アイマスクで参加

晴眼者と視覚に障がいのある参加者がペアになり、二人一組で手や指をくっつけた状態でピアノ演奏を聴きながら自由に動いてみる時間。二人のうち、どちらかがリードするのではなく、お互いの動きを手や指先で感じ取りながら各グループが踊る姿は、まさにこのペアだから生み出したダンスとしか言いようのない時間だった。

●ふりかえり

終了後の参加者からの感想の時間では、「生のピアノでこんな風に踊った経験がなかったのでとてもよかった」「舞台上でスターになった気がした」「(晴眼者の声として)目が見えない状態で動くことに恐怖を感じたが、同時に音楽があることで感じることもあった。視覚に障がいのある人の状況が少しわかった」という意見がでた。



2月18日（水） 愛知県豊橋聾学校 小学部

●対象と時間割

同日に2回に分けて対象学年の異なる2グループに対して実施した。

1回目：9：45～10：30 対象：小学部3、4、6年生 7名

体育の授業の枠組みの中で2回目として実施。日直による授業開始の号令のあと、講師の手話ネームの動きを、児童たちはエレクトーン之音に合わせて思い出しながら真似しており、その様子は楽しそうであった。四つん這いになり足や頭で児童同士がタッチする場面では、痛くならないようにお互い優しくタッチし合う様子が印象的だった。

1回目のワークの内容を思い出し、二人一組で相手の動きを真似するワークを体験。最初速すぎるグループも、徐々に相手のペースに合わせられるようになってきた。

身体に触れられると止まり（凍り）、触られると動ける（溶ける）というワークでは詳しく説明せずとも理解が早く、すぐにできていた。

二つのワークを組み合わせてやってみる活動でも、すんなりと理解をして出来上がる様子は2回の積み重ねを感じた。

2回目：10：40～11：25 対象：小学部1、2年生 4名

2回目参加の3名と初参加となる1名の合計4名で実施。日直による授業開始の号令のあと、真似っこダンス、足や頭で講師・児童同士でタッチし合う。

音楽に合わせて行進しながらポーズを作ってみる。その後、自分自身のポーズも作ってみる。

二人一組になってお互いの人差し指同士で風船を挟んで落とさないように動くワークでは、小指同士、背中同士と場所を徐々に移動させながら経験を深める。最終的には風船の数を増やし、お互いの身体で支え合いながら風船を動かすことを体験。2チームに分かれて、お互いの動きを見合った。



●この事業への応募動機

穂の国とよはし芸術劇場では、現代ダンスの企画制作・上演や、招聘による上演、ダンスワークショップやダンス等の身体表現に関するアーティストを対象とする「豊橋アーティスト・イン・レジデンス『ダンス・レジデンス』」のほか、「公共ホール現代ダンス活性化事業・活性化支援事業」を継続的に実施していることで、地域住民に対してダンスや身体表現の普及が広がっており、ワークショップの参加人数も増加傾向にある。しかしながら、多様な背景を持つ人々の鑑賞、参加に関しては伸び悩んでおり、特別支援学校や障害福祉施設との連携の強化とともに、障がいのある人を対象としたプログラム立案の際に必要なコーディネート力の構築が必要と考えている。本事業に取り組むことで、①障がい者が参加しやすい環境づくりやプログラム立案能力の形成②柔軟かつ効果的な対応ができる職員の育成③聾学校や障害者施設との密接な協力関係の構築を実現し、定期的かつ継続的な協働の枠組み作りを実現する。

●事業のねらいと企画のポイント

これまで穂の国とよはし芸術劇場での取り組みに加えて、多様なニーズを持つ人々、特に障がいのある人の参加を促進し、創造的な体験を提供することを目的とした。豊橋聾学校とは、過去にダンスと音楽によるワークショップを共同実施した実績があり、劇場と聾学校の関係性をさらに強固なものとすると同時に、複数回実施することで参加する子どもたちにとって、この経験がより浸透し、舞台芸術や身体表現に自ら興味・関心を持つことに繋がると考えた。特定非営利活動法人でのひらは、本事業をきっかけに出会った団体であり、視覚に障がいのある方とのワークショップの実施という、我々にとってあまり経験のないことにチャレンジできる機会となった。こういった機会を活用し、新しい団体との関係性を構築することは我々にとっても非常に重要であると考えた。

●企画実施において苦労した点

あまり苦労することはなかったが、会場選定の面では両団体ともに多少の苦労が生じた。豊橋聾学校については、体育館の改修工事日程と重なったため、少し広めの教室であるプレイルームや音楽室を会場とした。それぞれ少人数での実施であったため問題はなかったが、学校全体での実施となると困難であったと考える。特定非営利活動法人でのひら（実施会場：就労支援施設「陸」）での1回目のワークショップは、作業所の一角の狭いスペースで実施することとなったが、施設の協力や活動内容を調整したことで大人数が同時に激しく動くことはなく問題は生じなかった。また、2回目は穂の国とよはし芸術劇場で実施。参加人数が直前まで決まらないということが生じたが、受け入れスタッフの人数に余裕を持つなどしたことで、大きな混乱はなかった。

●事業を実施しての成果と課題

本事業の実施により、これまでアプローチが難しかった視覚・聴覚に障がいのある方々を対象としたワークショップが可能となり、関連団体との連携も強化された。また、障がいのある人々が気軽にワークショップなどの劇場の取組に参加できる環境を整えることで、地域の文化的な包容力の向上にも寄与した。

さらに、アウトリーチ型ワークショップを行ったことで、参加者の事情をより深く理解したうえで実施体制を構築できたことは大きな成果である。これらの取り組みは、劇場職員の対応能力向上にも大いに貢献したと考えられる。

今後の課題としては、既存の関係団体との連携をさらに強化するとともに、まだつながりのできていない団体や障がい者への新たなアプローチ方法を検討していく。

●今後の事業展開や展望

より多様な市民が劇場の事業に参加し、参加、鑑賞できる機会を提供できるよう、引き続き取り組みを進めていく必要があると考えており、これらを実践するために、継続的に体験型のワークショップを実施するほか、視覚や聴覚に障がいのある人も一緒に舞台芸術作品を鑑賞できる舞台手話通訳や音声ガイドなどの鑑賞サポート付き舞台作品の創作を劇場プロデュースとして取り組み、鑑賞したい人、参加したい人、体験したい人、それぞれのニーズに応えられるような事業展開を目指す。

この劇場は、「豊橋市が東三河市民のための演劇・舞踊・音楽等の芸術文化の振興と芸術文化を活用した市民の交流と創造活動の活性化を図るため、芸術文化交流施設として」^{※1}、2013年に開館している。公演の実施はもとより、市民との創造事業やアウトリーチ・ワークショップ、劇場ツアー等の体験普及事業、ワークショップファシリテーター養成講座等の人材育成事業など、多様な事業を展開。障がいのある方が劇場に足を運ぶための環境整備にも取り組み、鑑賞支援サービス付き公演や特別支援学校でのアウトリーチ・ワークショップ、視覚・聴覚障害者を主な対象とする劇場ツアーも行ってきたことが、事業報告書等から窺える。

今回のダン活では、特別支援学校や福祉施設との連携強化を一層図るとともに、障がいのある方が安心して参加できる環境を整備できる人材の更なる育成を狙い、2施設で2回連続ワークショップが実施された。

1つ目の施設は視覚に障がいのある方が通う就労継続支援B型事業所。施設内での軽い体操をしたことがある程度でダンスは初めて経験するため、1回目は参加者が慣れている施設内で実施し、2回目は劇場体験も兼ね、劇場にて行う形が取られた。

2回のプログラムはベースが共通しており、楽器の音に耳を澄ませ、身体をほぐすことから始まる。1人で行う動きから、見える人と見えない人がペアになりコミュニケーションを取るワークへと移行していくと、それがダンスとなるというものだ。2回目はペアでのワーク時に、見える人がアイマスクを付けた。それは、無意識下の支援する側支援される側という関係性に変化を生み出し、2人の感覚をより一層研ぎ澄ましていく。そこにはとても素敵なダンスが立ち現れた。

2つ目の施設は聾学校だ。低学年と高学年の2組に分けて行われたこちらのプログラムもベースは共通。簡単な動きから始め、少しずつ動きを複雑化していく。ダンサーも手話を用いて直接伝えることを心がけ、発する言葉は最小限。情報を視覚で伝えることが、ペアでのコミュニケーションによるおもしろいダンスを引き出していた。

今回のダン活の特徴は2つ。

1つ目は連続実施したこと。2回目は距離感がグッと縮まり、プログラムを深化させることができる。それが、表現をより引き出すことにつながり、施設職員や学校教諭の意識に変化を起こした。もしかしたら自分たちが彼らの可能性を狭めていることもあるのかもしれない、という教諭の声はその一つだ。複数回行うことの重要性を、その場にいる全員が認識した。

2つ目は劇場が取り組んできたことが活かされていた点だ。視覚に障がいのある方を対象としたワークショップの1回目と2回目の間には劇場ツアーが行われ、2回目のワークショップにはワークショップファシリテーター養成講座修了生や市民との創造事業関係者がサポーターを務めていた。何より、障がいのある方が安心してできる環境整備への配慮が深く、接し方にも慣れてきた。これまでの経験によって培われたものだろう。

今回の参加者のうち、劇場に来たことがない方も多かった。

聾学校の授業の一環に公演鑑賞を取り入れてもらうことから始め、特別支援学校に通う子どもたちにとって劇場が身近な場所となり、足を運んでもらえるよう取り組んでいきたいと言う。また、視覚に障がいのある方が通う施設とは、このダン活をきっかけに関係性が生まれた。ここから他の福祉施設とのつながりも広げ、アウトリーチを継続実施し、出会った方々との創造事業にも取り組んでいきたいそうだ。

しかし、就労継続支援事業所でのアウトリーチには、「工賃」制度という、考えてもいなかったハードルが見つかった。

そして、来年度以降も地域創造の助成には頼らずに継続していくそうだが、施設とのつながりが広がると必要経費は増える。どのような展望でどのように継続していくのか非常に興味が湧く。コーディネーターとしての関わりがなくなっても、継続とそれによる変化を見つめ続けたい。

※1 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT ホームページより抜粋

令和7年度
公共ホール音楽活性化事業（障がい者関連プログラム）
公共ホール現代ダンス活性化障がい者関連事業 報告書

発行／一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂 2-9-11 オリックス赤坂 2 丁目ビル 9 階
Tel.03-5573-4076 Fax.03-5573-4060
発行日／令和8（2026）年5月

